

# 玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411  
http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo

## 七曲坂自然の学校開校

玉縄の未来を担っていく子どもたちに、故郷“たまなわ”を感じて貰いたい。そんな思いで植木小学校2年生のみなさんに水仙の植え付けをお願いしました。(2008年11月13日)

みんなで「水仙」や「玉縄の歴史」の話を聞く



担任の先生と会員に教わりながら植え付け



**中期実施計画で祭典・記念事業の推進が加速**  
当会が進めてきた玉縄城500年祭と記念事業の構想は、鎌倉市中期実施計画の発表によって市民行政の協働事業として船出しました。市の計画内容は、  
1. 玉縄地域のまちづくりとして「玉縄城500年祭を推進」し、歴史の道「七曲坂の整備」を行う。これに61,425千円の予算を計上する  
2. 玉縄の緑地保全として平成25年(2013)までに植木

地区の「特別緑地指定」を行う。また、玉縄に限定したものではありませんが、当会が玉縄城址公園への第一歩として第1号指定を求めている「市民緑地制度」の導入も明記されました。これらの実施計画は市長をはじめ鎌倉市が熱心に市民の声を傾け、玉縄のまちづくりを注ぎこみはじめたかを、雄弁に物語っています。

念願の「玉縄城址での500年祭」へ基本的な合意が得られました。こうしてオール玉縄体制による「500年祭」と「記念事業」の推進がいよいよ加速されます。  
今年11月の玉縄城500年祭実行委員会の発足を前に、私たちはまず祭典と記念事業の基本方針をまとめました。  
1) まつりの呼称と開催日時：「玉縄城500年祭」平成24年(2012)秋の連続2日間。又毎年同じ時期に暦年祭として「玉縄城まつり(仮称)」を行う  
2) まつりの目標：玉縄地域がもつ歴史や自然の「地力」を再発見、再発掘し、魅力溢れるふるさとづくりに結び付ける

500年祭記念事業として「甦れ!玉縄城」の理念のもと、玉縄城址公園推進事業、画像による玉縄城復元事業、龍寶寺玉縄民俗資料館リニューアル事業、そして歴史の再発見の中心事業の一つとして「玉縄歴史アカデミア」を立ち上げます。その連続セミナーを「玉縄城の遺構を読む」のテーマで、500年祭当日の総合シンポジウムまで継続実施します。  
市民の皆さまの活動への参加を、心からお待ちしています。

## 甦れ! 玉縄城500年祭、七曲坂市道整備へ、市予算

地区の「特別緑地指定」を行う。また、玉縄に限定したものではありませんが、当会が玉縄城址公園への第一歩として第1号指定を求めている「市民緑地制度」の導入も明記されました。これらの実施計画は市長をはじめ鎌倉市が熱心に市民の声を傾け、玉縄のまちづくりを注ぎこみはじめたかを、雄弁に物語っています。

念願の「玉縄城址での500年祭」へ基本的な合意が得られました。こうしてオール玉縄体制による「500年祭」と「記念事業」の推進がいよいよ加速されます。  
今年11月の玉縄城500年祭実行委員会の発足を前に、私たちはまず祭典と記念事業の基本方針をまとめました。  
1) まつりの呼称と開催日時：「玉縄城500年祭」平成24年(2012)秋の連続2日間。又毎年同じ時期に暦年祭として「玉縄城まつり(仮称)」を行う  
2) まつりの目標：玉縄地域がもつ歴史や自然の「地力」を再発見、再発掘し、魅力溢れるふるさとづくりに結び付ける

500年祭記念事業として「甦れ!玉縄城」の理念のもと、玉縄城址公園推進事業、画像による玉縄城復元事業、龍寶寺玉縄民俗資料館リニューアル事業、そして歴史の再発見の中心事業の一つとして「玉縄歴史アカデミア」を立ち上げます。その連続セミナーを「玉縄城の遺構を読む」のテーマで、500年祭当日の総合シンポジウムまで継続実施します。  
市民の皆さまの活動への参加を、心からお待ちしています。

## 「玉縄城址まちづくり会議」の活動

- 2008年(平成20年)
- 11/ 3 広報紙3号発行
  - 11/ 8 第15回玉縄祭り お休み処「黄八幡」出店
  - 11/13 「自然の学校」開催 植木小2年生 水仙植えつけ
  - 11/15 「500年祭を語り合う会」開催
  - 11/21~23 玉縄学習センターフェスティバル「甦れ!玉縄城」展示 230人参加
  - 12/ 6 清泉女学院内「諏訪壇、けまりば、お花畑」探索
  - 12/16 市長と懇談「500年祭実施事業」の確認と市長からの「玉縄再発見推進」提案発言 実施計画
    - 1) 七曲坂の改修平成23年
    - 2) 500年祭を支援
    - 3) 植木地区の特緑指定
  - 12/28 1号地に手づくりベンチ設置
- 2009年(平成21年)
- 1/ 8 文化財課、経営企画と協議
  - 1/10 アダプト・広場整備、七曲尾根「切岸」縄張り測量
  - 1/11 事務局会議、監査
  - 1/13 文化財課協議
  - 1/18 「花壇クラブ」草取り、整備
  - 1/24 「第3回総会」・「玉縄について話そう」役員会
  - 1/26 緑政審議会傍聴「子ども風土記」草稿閲覧
  - 2/ 7 アダプト市道の草刈、清掃 小坂家裏山縄張り測量 かまくら環境会議講演「玉縄の自然と歴史」
  - 2/ 8 市観光課「個別イベント連絡会」出席
  - 2/14 コンセプト会議「500年祭一祭りの目的と方針」
  - 2/15 「花壇クラブ」花植え付け
  - 2/19 景観部みどり課、経営企画と協議、教育長と懇談
  - 2/21 全会員に「事務局通信 春号」配布
  - 2/26 三役会議500年祭基本構想
  - 3/ 7 アダプト市道の草刈、清掃 小坂家裏山縄張り測量
  - 3/15 「春の探索会」清泉女学院 諏訪壇~龍寶寺
  - 4/18 清掃奉仕「龍寶寺 資料館」

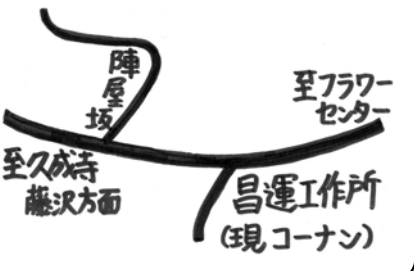


## 玉縄思い出写真館

上空より見た植木 豊田富美子さんの兄君 昭和27年頃撮影

【ひと言】  
フラワーセンター前から、久成寺坂を越えて藤沢に行く道は、昭和の初めに新道が敷かれまして、(上の写真では所々旧道の跡も見えています)  
植木の辺りは田んぼばかりで、昭和16年に進出してきた工作機械メーカーの昌運工作所だけが

大きな建物でした。陣屋坂の西側に、その社宅が多数建てられているのを見えます。今では家々やマンションが立ち並んでいますが、旧道を含めて道筋はそのまま残されているようです。



## 第2回「自然の学校」

玉縄小学校の3年生を迎え、秋の菊を植えます。  
6月1日(月)

## 市民活動の日

フエスティバル参加  
6月5日(金)~7日(日)  
10:00~17:00

## 連続セミナー 第1回

「玉縄城の遺構を読む」  
6月20日(土)  
13:30~

## 玉縄城500年祭実行委員会」発会式

11月22日(日)

## 清泉女学院講堂

発会式と基調講演「シンポジウムを開催予定」

## 玉縄城500年祭

11月22日(日)

## 玉縄城500年祭

11月22日(日)

## 玉縄城500年祭

11月22日(日)

## 玉縄城500年祭

11月22日(日)



年費1,200円払込のための「郵便振替口座番号」  
0025007114824  
玉縄城址まちづくり会議  
※住所・氏名・電話番号をお忘れなく!



「ハム」を造る鎌倉ハム富岡商會

明治新政府は、新しい国造りのため政治体制の拡充整備などが焦眉の急となっていました。

その様な背景のもと、日本国有鉄道は、明治五年十月に、初めて新橋・横浜間に鉄道を開通。明治二十年には国府津まで延長されました。大船には、その時、信号所が出来、翌二十一年(1888)十一月一日に大船駅としての営業が開始されました。

十二年に横須賀線が大船・横須賀間で開通、軍港を抱える横須賀と東海道線を結ぶ大船駅は重要な拠点となりました。乗降口の西口駅前(表駅)には当時は鉄道官舎など関連施設が建ち並び、旅館「三嶋屋」が比較的早い時期に営業を開始しています。

元々は越中富山で医者をしていましたが、後北条氏に呼ばれて小田原城にきて、その後玉縄城が出来た時に、城付きの医者として玉縄に派遣されてきたそうです。玉縄城が廃城になった後は、土地に居ながら百姓になったようです。

「まさには玉縄城500年の歴史をぜひご覧になってください。お楽しみですね。住む場所もずつと変わってはいないようなのですが、なぜか檀那寺(菩提寺)が江戸時代は金沢文庫の称名寺だったらしく、残念ながらその頃の家の記録や財物が残っていません。

明治初めに生まれた祖父は、農事試験場(フラワーセンターの前身)に勤めながら自作農業もしていました。そして父は「半農半鉄」といって国鉄に勤めて夜勤をしながら、昼間は家の農作業をするという仕事をしていた。当時は同じような家が玉縄にも何軒かありました。

私はどうも農作業が嫌いだったので、65歳まで勤め人一筋でした。今はいやな農業を少しだけやっています。(笑)

その大船軒創業の富岡家が大正中頃と思われるが、山を切崩し梨畑を埋立て造成したのが現在の新富町と呼ばれる地域(台一丁目5-12、線路と川の間)です。「富岡」の名をとつて町名としたと云われています。



富岡橋と富岡ハム(写真提供 霜田繁男さん)

それに加えて芸者置屋があり、華やかな街となっていました。塩釜神社の祭礼の時など祭りを盛り上げ、中々の賑わいでした。

今では、新富町も静かな住宅街となりました。現在では想像することすら出来ない遠い昔の夢を見る思いです。(玉縄歴史の会会長)

三代玉縄城主北条綱成(ほうじょうつなしげ)嫡男として、天文五年(1536)に出生。仮名を善九郎とい

い、後に三代小田原城主北条氏康の「康」の字をもらい康成(やすしげ)を名乗る。綱成同様剛勇の将として各地を転戦、天文二十年(1551)上野国平井城上杉氏攻略の時、氏康にしたがって16歳で出陣、真っ先に切り込み敵13人を討ち取ったという。

永禄元年(1558)父綱成と共に、常陸下野方面にも出陣。綱成の補佐役として職務を代行する。永禄四年(1561)2月頃に氏康のもとに越後の長尾景虎(後の上杉謙信)が武蔵・相模方面に出陣との情報が入り、各地の北条方に防戦の準備が命じられ、玉縄城の綱成は下総方面の備えとして有吉城へ出張する。この時氏康は26歳の康成を玉縄城代とした。

長尾景虎は3月中旬に上杉氏の名跡を受け継ぎ、上杉政虎と名を改め、関東管領の地位と職務を名実共に実行せんと北条攻めを開始。小田原城を囲んだが果たせず、鎌倉鶴岡八幡宮社頭での関東管領就任拝賀式後、玉縄城長尾岩を本陣に玉縄城攻略にかかった。(長尾台は上杉謙信先祖の地。元は鎌倉覚長尾氏の本貫

遊行寺で年2回行われる開山忌に父や祖母に連れて行ってもらった時には、まだ久成寺坂が無くて、円光寺から旧道で二伝寺に上がって渡内・柄沢・天嶽院経由で歩いていきました。

「子どもの頃(昭和初期)の植木はどんなところでしたか」

家が十軒位しかなくて、田んぼばかりでした。今もあるコーナンの前から植木小学校前に抜ける旧道は、両側が小川になっていて、メダカや鮒、ザリガニ、モクダガニ、ウナギなどが沢山居ました。家は小川の向こう側なので、各戸が自家で簡単な橋を架けており、町内で年に2・3回はドブさら(土砂を掻き出す)をしていました。

田植え前後の頃に、「ドジョウぶつ(泥鰌打ち)」といって、夜カンテラで田んぼを照らして寄ってきたドジョウを、先に針を沢山付けた棒で叩いて捕る遊びがありました。それは楽しい遊びでした。大水が出た後に、戸塚の養魚場から柏尾川を流されてきた金魚や緋鯉が小川に逃げ込んできて、田んぼの水口に溜まっているのを手づかみしたのも楽しい思い出です。

地で鎌倉時代室治合戦で在地領主の長尾氏が討死。その後、長尾一族は越後に移った。康成は玉縄城代として父の留守を預かり防ぎ切り、上杉政虎は玉縄城の大規模な外郭や各岩に囲まれた防塁の守りの固さ、越後からの遠征による兵士たちの疲れや食糧の問題で、決戦には出ず、越後春日山に帰城する。元龜二年(1571)10月北条氏康が没し、翌年1月に綱成より家督を譲られ、氏繁と改名。官名も父と同様左衛門大夫となり、四代玉縄城主となる。氏繁の活動はこれ以降拡大し、四代小田原城主北条氏政を援け、岩付城を支配。天正五年(1577)には下総飯沼城を佐竹氏への備えとして築城。

氏繁は剛勇の人だが教養人でもあり、特に絵画では松の古木にとまる鷹の図が有名。氏繁は天正六年(1578)6月13日下総飯沼城で病のため43歳で没す。

父綱成が63歳で健在中のことであった。氏繁の母と妻(その名は七曲殿)は共に岩瀬の大長寺に葬られている。



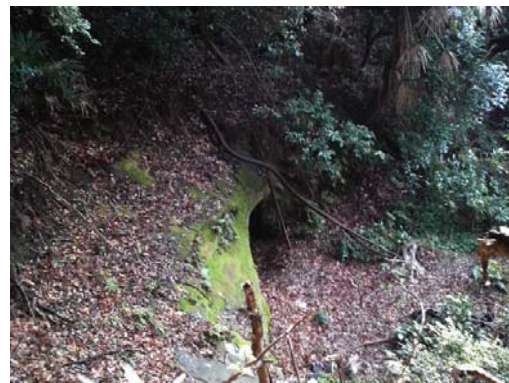
汗かき・知恵出し・声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

インタビュー～玉縄万華鏡～



玉縄城時代に掘られたとの言い伝えが残る白崎さん宅の裏山の岩窟

玉縄城と共に500年 植谷戸の旧家 白崎 弘さん (しらすき ひろしさん 植木)



「まさには玉縄城500年の歴史をぜひご覧になってください。お楽しみですね。住む場所もずつと変わってはいないようなのですが、なぜか檀那寺(菩提寺)が江戸時代は金沢文庫の称名寺だったらしく、残念ながらその頃の家の記録や財物が残っていません。

明治初めに生まれた祖父は、農事試験場(フラワーセンターの前身)に勤めながら自作農業もしていました。そして父は「半農半鉄」といって国鉄に勤めて夜勤をしながら、昼間は家の農作業をするという仕事をしていた。当時は同じような家が玉縄にも何軒かありました。

私はどうも農作業が嫌いだったので、65歳まで勤め人一筋でした。今はいやな農業を少しだけやっています。(笑)

玉縄再発見



2009年(平成21年)1月10日着工前の姿



2009年(平成21年)3月2日竣工

龍寶寺山門が葺き替えられ昔日の輝きを取り戻しました